

広報

あまのい

(天の医)



高千穂三代橋（高千穂町）

高千穂峡から望む3つの橋。「高千穂三代橋」「高千穂三橋」などと呼ばれています。上から順に「高千穂大橋」「神都高千穂大橋」「神橋」とそれぞれ命名されており、高千穂峡で見ることでできる心惹かれる景色の一つです。



西臼杵医療センター
NISHIUSUKI MEDICAL CENTER

センター長あいさつ

～VUCAな時代に、レジリエントに生きる～



センター長（西臼杵広域行政事務組合 病院事業管理者）の「寺尾公成」でございます。西臼杵医療センターの広報誌「広報 あまのい（天の医）」No.5（2026年・夏号）をお届けいたします。発刊を待っておられた方にも、たまたま目に触れられた方にも、ご一読頂ければ幸いです。

先日、お隣熊本県の山都町包括医療センターそよう病院の第32回院内学会にお招き頂いて、特別講演をする機会がありました。「西臼杵医療の目指す道～VUCAな時代に、レジリエントに生きる～」と題して、雑駁で拙い講演をしてきました。ここで、「VUCAな時代に、レジリエントに生きる」とはいかなることかについて、触れてみたいと思います。既にご存じの方には釈迦に説法となりますが、「VUCA」とは、「Volatility（変動性）」「Uncertainty（不確実性）」「Complexity（複雑性）」「Ambiguity（曖昧性）」の頭文字を取った略号で、1990年代の米軍の軍事用語が起源となっていて、冷戦後の不安定な国際情勢を表現するために使われ、2010年代以降、ビジネス界に

において「変化が激しく予測困難な環境」を指す概念として普及してきたようです。では、「医療におけるVUCAとは？」とりわけ、人口減少・少子高齢化・過疎化といった難題を抱える中山間地における医療界にあっては、高齢者救急、介護連携、経営問題、集約化などなど一筋縄では解決できない課題が累積しています。まさしく、先行き不透明で予測困難な状況をいかに乗り切るかであります。そこで、「レジリエントに生きるとは？」すなわち、諸事に対して弾力的かつしなやかに対処していこうではないかということです。「言うは易く行ふは難し」かもしれませんが、それぞれの課題に柔軟に向き合って、工夫を凝らし、乗り越えていかなければならないと思います。

当センターでは、予測困難なVUCAな時代にあって、レジリエントに対応していくことで、さらなる「医療の進化」を目指していく所存であります。

今後とも、西臼杵医療センターの広報誌「広報 あまのい（天の医）」へのご助言、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

“医療とは、理路整然とした科学と

心溢れる情熱の融合である。”



令和8年7月吉日

西臼杵医療センター

センター長 寺尾公成

地域の皆さん、患者さんと職員の「安全・安心」のために

「防犯協定」を締結

令和8年1月、高千穂警察署と西臼杵郡医師会（国見ヶ丘病院・古賀医院・佐藤医院と西臼杵医療センター【高千穂町国保病院・日之影町国保病院・五ヶ瀬町国保病院】）は、「子供・女性・高齢者・医療従事者を犯罪から守る活動に関する協定」を締結しました。

医療界においては、近年、全国的に医療機関への過度な要求や暴言・暴力などのいわゆる「カスタマーハラスメント（パシエントハラスメント）」等が課題となっており、地域医療を持続させるためにも、組織的な対策が求められています。

この協定は、地域の皆さまが安心して医療を受けられる環境を守るとともに、医療従事者を犯罪や迷惑行為から守ることを目的とするものです。



カスタマーハラスメント防止措置義務化のお知らせ

令和8年10月より、すべての事業者において「カスタマーハラスメント（カスハラ）防止措置」が法令上の義務となります。これは、過度な要求や暴言・威圧的な言動などにより、職員の心身の健康や医療提供体制が損なわれることを防ぐための制度です。

当医療センターではこれまでも、患者さん・ご家族の皆さまとの対話を大切にしながら、安心して医療を受けていただける環境づくりに取り組んできました。今回の制度化を受け、以下のような取り組みをさらに強化してまいります。

- 職員へのハラスメント防止研修の充実
- 院内での迷惑行為・暴言等への対応手順の明確化
- 相談窓口の整備と迅速な対応
- 安全な診療環境を守るための環境づくり

カスタマーハラスメント防止措置は、患者さん・ご家族・職員のすべてが安心して医療に向き合える環境を守るためのものです。



防犯訓練を実施

協定締結後、西臼杵医療センターの各病院では、高千穂警察署から講師を招き、職員向けの防犯訓練を行いました。

訓練では、

- 不審者対応の基本動作
- 暴言・威圧行為への適切な対処
- 警察への通報判断と情報共有の流れ

など、現場で役立つ具体的な内容を学びました。また、さすまたを使った訓練も行われました。職員からは「対応の基準が明確になり安心して働ける」「警察との連携が心強い」といった声が寄せられました。

地域医療を守る

西臼杵地域の医療は、限られた人員で地域全体を支える体制です。医療従事者が安全に働ける環境が確保されることで、結果として住民の皆さまが安心して医療を受けられる体制が維持されます。今後も、各病院・医師会・警察が連携し、地域の安全と医療の質向上に取り組んでまいります。皆さまのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

第2回医療と介護の連携会議



西臼杵医療センター
NISHIUSUKI MEDICAL CENTER

第2回 医療と介護の連携会議

【講演会】

講演テーマ

医療で「文化をつくる」

～多職種で描く、最期まで自分らしく生きられるまち～

場 所：高千穂町国民健康保険病院 大会議室

日 時：令和8年6月19日 午後5時30分～

講師のご紹介

医療法人en

緑 在宅クリニック

— EN HOME CLINIC —



院長 岩谷 健志 様

- ・延岡市島浦町出身。
- ・2012年 島根大学医学部 卒業。
- ・県立宮崎病院、熊本赤十字病院で救急専門医として救急医療、集中治療、総合診療、災害医療等に従事。
- ・2020年、国際離島へき地プログラム「Rural Generalist Program Japan」に参加し、長崎県上五島病院等で総合診療、在宅医療、海外地域医療を学ぶ。
- ・2021年、延岡市に戻り、県立延岡病院救命救急科に勤務。
- ・2022年、緑・在宅クリニックを開院。「その人らしい生き方を叶える医療の提供」を理念とし、小児から高齢者、悪性腫瘍や神経難病患者、医療的ケア者など年齢や診療科にとられない地域型在宅医療を展開している。

第1回目のアンケートの回答内容を基に、2回目は講演会という形で、講師に医療法人en・緑・在宅クリニック 院長の岩谷健志先生をお招きし、医療で「文化をつくる」～多職種で描く、最期まで自分らしく生きられるまち～をテーマに講演を賜りました。100名を超える参加があり、西臼杵管内の医療や介護に携わる多くの職員が、岩谷先生ご自身の経験談や、住民・自院のスタッフ・地域の多職種へのアプローチの考え方を学ぶことができました。当会議の目的である「関係機関の機能や課題を共有し、顔の見える関係性を構築することで地域包括ケアシステムのより円滑な推進を図る」ための考えが深まる場となりました。



就職説明会へ参加

九州医療科学大学の就職説明会に参加してきました。臨床検査技師コースの35名の学生の皆さんへ西臼杵医療センターをアピールしてきました。当センター含め13組の団体が参加する中、フリータイムの時間でも多くの学生さんが当ブースに来られて、西臼杵医療センターに興味を持っていただけたようで嬉しく思いました。



編集後記

今年ほど雨が続く梅雨は久しぶりだなと感じていたところ、ふとわずかに晴れた日がありました。「今しかない！」と撮ってきたのが表紙写真（高千穂三代橋）です。撮影の難しさと、夏の晴れた日の暑さを実感した日でした。梅雨が明けるとさらにとんでもない暑さになってきました。屋外での作業や行事が増えてくるかと思いますが、皆さん体調崩されませんようご自愛ください。 広報担当 甲斐和希



西臼杵医療センター
NISHIUSUKI MEDICAL CENTER

〒882-1101
宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井435番地1
TEL：0982-73-1715
FAX：0982-73-1718
URL：<https://www.nishiusuki-hp.jp/>

